

今後の EDU-Port についてご議論頂きたい論点(例)

1. 2020年度(最終年度)の進め方について

(1) 日本型教育の特徴・優れた点の総括について

- ・これまでの成果を踏まえ、「日本型教育とは何か」、「何が Flagship となり得るか」などエッセンスをどのように抽出・整理することができるか
- ・大学などアカデミックな視点をどのように取り入れるか

(2) これまでの事業の成果・好事例・効果をどのように示していくか

- これまで35か国で47件のパイロット事業を実施
 - ・エジプト: 特別活動の公立学校への導入を目指して、モデル校において掃除、日直等の取組を実施(JICA スキームにて)
 - ・ベトナム: 器楽教育(リコーダー)や体育について、現地の小学校等で実践

(3) プラットフォームの充実・改善の方策について

(広報機能の強化や外国のニーズをどのように取り入れるか)

(4) 最終年度のパイロット事業について

(最後の1年間について、重点地域や実施テーマ等についてはどう考えるべきか)

2. 2021年度以降の第2期EDU-Portの進め方について

(1) 第2期 EDU-Port の在り方について

(どのようなコンセプトで事業を実施するべきか)

(2) 海外への効果的な情報発信について

(更なる効果的な発信方法やニーズの掘り起こしの方策について)

(3) 海外展開事業者への具体的な支援の方策について

- ・これまでと同様にパイロット事業を実施するべきか
- ・シーズとニーズのマッチング機能の強化について

(4) ネットワークを自立的に継続・発展していくための方策について

(現在約 500 機関がプラットフォームに参画しているが、そのプラットフォームの今後の事務局機能の担い手や財政的基盤の強化の方策について)